

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2022年11月14日

【四半期会計期間】 第161期第2四半期(自 2022年7月1日 至 2022年9月30日)

【会社名】 日本紙パルプ商事株式会社

【英訳名】 Japan Pulp & Paper Co., Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 渡 辺 昭 彦

【本店の所在の場所】 東京都中央区勝どき三丁目12番1号  
フォアフロントタワー

【電話番号】 (03)3534 - 8522(代表)

【事務連絡者氏名】 財務部部长 横 澤 和 彦

【最寄りの連絡場所】 東京都中央区勝どき三丁目12番1号  
フォアフロントタワー

【電話番号】 (03)3534 - 8522(代表)

【事務連絡者氏名】 財務部部长 横 澤 和 彦

【縦覧に供する場所】 日本紙パルプ商事株式会社 関西支社  
(大阪市中央区瓦町一丁目6番10号)

日本紙パルプ商事株式会社 中部支社  
(名古屋市中区丸の内三丁目22番24号)

株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第160期 第2四半期 連結累計期間	第161期 第2四半期 連結累計期間	第160期
会計期間	自 2021年4月1日 至 2021年9月30日	自 2022年4月1日 至 2022年9月30日	自 2021年4月1日 至 2022年3月31日
売上収益 (百万円)	208,029	266,324	444,757
経常利益 (百万円)	6,661	10,273	15,051
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	8,454	17,830	11,499
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	8,950	19,849	12,506
純資産額 (百万円)	98,108	119,407	100,317
総資産額 (百万円)	325,554	361,010	338,939
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	617.36	1,299.88	839.50
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	615.88	1,297.24	837.56
自己資本比率 (%)	28.0	30.8	27.4
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	7,601	701	14,007
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	719	34,219	4,078
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	7,952	15,181	9,833
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	10,963	32,397	12,731

回次	第160期 第2四半期 連結会計期間	第161期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 2021年7月1日 至 2021年9月30日	自 2022年7月1日 至 2022年9月30日
1株当たり四半期純利益 (円)	143.76	287.35

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 「1株当たり四半期(当期)純利益」及び「潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益」の算定上、役員向け株式交付信託が所有する当社株式を、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。

#### 2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があると認識している主要なリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

### 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 財政状態及び経営成績の状況

##### 経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間における当社グループの業績は、売上収益266,324百万円（前年同期比28.0%増）、営業利益9,537百万円（同51.0%増）、経常利益10,273百万円（同54.2%増）となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は、当社が東京都中央区に所有する固定資産の一部譲渡に伴う固定資産売却益を特別利益に計上したこと等により、前年同期比110.9%増の17,830百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間の経営成績をセグメント別に見ますと次のとおりです。

##### 「国内卸売」

紙は、新型コロナウイルス感染症対策の行動制限が緩和されたことによる社会経済活動の正常化に伴い、イベント向けのチラシやパンフレットなど一部需要回復の動きが見られました。また、各製紙メーカーの価格修正に伴う前倒し需要が発生したことで販売数量が前年同期に比べ増加しました。

板紙は、行動制限の緩和による人流の回復に伴う飲料や土産物向けの需要回復が見られ、通販関連や加工食品向けの需要は前年並みの販売数量を維持しているものの、自動車及び機械関連向けの需要が低調に推移したことから、販売数量は前年同期に比べ減少しました。

電子部品関連機能材については、中国におけるゼロコロナ政策等の影響で半導体をはじめとする電子部品向けの需要が減少し、販売数量は前年同期に比べ減少しました。

売上収益は、板紙等販売数量が減少した品種があったものの、紙、板紙ともに価格修正により販売価格が上昇したことから、前年同期比4.0%増の88,415百万円となりました。

経常利益は、売上収益の増加に加えて人件費等の販売費及び一般管理費が減少したことにより、前年同期比17.6%増の2,424百万円となりました。

##### 「海外卸売」

主要拠点である米国、英国、豪州において、社会経済活動の正常化に伴う需要の回復により販売数量が増加したことに加え、原燃料価格の高騰に起因する複数回にわたる価格修正が需給ひっ迫の環境下で浸透し販売金額が増加しました。本邦からの輸出においても板紙の販売数量が増加するとともに、紙及び板紙の販売価格が上昇しました。以上の結果に加えて為替換算の影響もあり、売上収益は前年同期比55.4%増の139,514百万円となりました。

経常利益は、運賃等の直接費や人件費等の営業費用の増加があったものの、売上収益の増加が上回り、特に米国、英国において大幅な増益となったことから、前年同期比298.0%増の6,116百万円となりました。

##### 「製紙加工」

売上収益は、インドネシアの段ボール事業における販売数量の増加に加えて、国内段ボール原紙製造事業及び再生家庭紙製造事業における価格修正が浸透したことにより、前年同期比9.8%増の22,621百万円となりました。

経常利益は、段ボール原紙製造事業及び再生家庭紙製造事業における原料古紙や副資材価格の上昇及び電力価格やガス等の燃料価格の高騰による製造費用の増加に加えて、ベトナムでの再生家庭紙製造事業における販売数量の減少により、前年同期比19.0%減の1,917百万円となりました。

##### 「環境原材料」

国内古紙事業においては古紙の発生数量の減少に伴い販売数量が減少したものの、米国古紙事業では販売数量が増加し、また、国内、米国ともに販売価格が上昇したことにより、古紙事業全体の売上収益は増加しました。さらに、国内及び海外製紙メーカー向けのパルプの販売数量の増加と販売価格の上昇、国内木質バイオマス発電所向け燃料の販売数量の増加と販売価格の上昇により、売上収益は前年同期比35.8%増の13,548百万円となりました。

経常利益は、国内、米国の古紙事業及び燃料の販売における売上収益が増加したことにより、前年同期比41.9%増の1,070百万円となりました。

#### 「不動産賃貸」

主要テナントビルにおける一部空室の発生及び当社が東京都中央区に所有する固定資産の一部譲渡により賃貸料収入が減少し、売上収益は前年同期比15.4%減の2,226百万円となりました。

経常利益は、売上収益の減少及び固定資産の一部譲渡に伴う一時費用の発生があり、前年同期比27.2%減の606百万円となりました。

#### 財政状態の状況

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、当社が東京都中央区に所有する固定資産の一部譲渡等に伴い有形固定資産が減少したものの、当該譲渡の収入による預金の増加や、売上債権及び棚卸資産の増加、また、為替換算の影響による増加等により、前連結会計年度末に比べて22,071百万円増の361,010百万円となりました。

総負債は、有利子負債が減少したものの、未払法人税等の増加や仕入債務の増加、また、為替換算の影響による増加等により、前連結会計年度末に比べて2,981百万円増の241,604百万円となりました。

純資産は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上による増加や為替換算調整勘定の増加等により、前連結会計年度末に比べて19,090百万円増の119,407百万円となりました。

#### (2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べて19,665百万円増加し、32,397百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況は、次のとおりであります。

##### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益の計上や仕入債務の増加等があったものの、売上債権及び棚卸資産の増加等により、701百万円の支出となりました(前年同期は7,601百万円の収入)。

##### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の売却等により34,219百万円の収入となりました(前年同期は719百万円の支出)。

##### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、有利子負債の減少や配当金の支払等により15,181百万円の支出となりました(前年同期は7,952百万円の支出)。

#### (3) 会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定について重要な変更はありません。

#### (4) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

#### (5) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき課題について重要な変更はありません。

(6) 主要な設備

新設、休止、大規模改修、除却、売却等について、当第2四半期連結累計期間に著しい変動があった設備は、次の通りであります。

(固定資産の譲渡)

当社は、経営資源の有効活用及び資産効率向上のため、東京都中央区に所有する固定資産の一部を2022年6月30日に譲渡いたしました。当該固定資産の譲渡に伴い、当第2四半期連結累計期間において、固定資産売却益16,765百万円を特別利益に計上しております。

なお、譲渡対象資産のうちフォアフロントタワーの当社が使用しているフロアについては、賃借による使用を継続しております。

(7) 連結業績予想

当第2四半期連結累計期間の業績及び今後の動向を踏まえ、2023年3月期通期の連結業績予想を上方修正し、営業利益は19,000百万円(前回発表予想13,500百万円)、経常利益は19,000百万円(同14,000百万円)、親会社株主に帰属する当期純利益は23,000百万円(同19,500百万円)に変更いたしました。詳細につきましては2022年11月8日公表の「通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

3 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	29,560,300
計	29,560,300

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2022年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2022年11月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	15,021,551	15,021,551	東京証券取引所 プライム市場	単元株式数は 100株であります。
計	15,021,551	15,021,551		

(注) 提出日現在発行数には、2022年11月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2022年9月30日		15,021		16,649		15,241

## (5) 【大株主の状況】

2022年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式を除く。)の総数に 対する所有株式 数の割合(%)
王子ホールディングス(株)	東京都中央区銀座4 - 7 - 5	1,638	11.8
みずほ信託銀行(株)退職給付信託 日本製紙口再信託受託者 (株)日本カストディ銀行	東京都中央区晴海1 - 8 - 12	1,402	10.0
日本マスタートラスト信託銀行 (株)(信託口)	東京都港区浜松町2 - 11 - 3	1,258	9.0
(株)日本カストディ銀行(信託口)	東京都中央区晴海1 - 8 - 12	512	3.6
日本紙パルプ商事持株会	東京都中央区勝どき3 - 12 - 1 フォアフロントタワー	497	3.5
J P従業員持株会	東京都中央区勝どき3 - 12 - 1 フォアフロントタワー	334	2.4
北越コーポレーション(株)	新潟県長岡市西蔵王3 - 5 - 1	310	2.2
中越パルプ工業(株)	東京都千代田区内幸町1 - 3 - 2	258	1.8
柿本商事(株)	京都市中京区寺町通二条上る常盤木町54	233	1.6
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO(常任代理人 シティバ ンク、エヌ・エイ東京支店)	PALISADES WEST 6300,BEE CAVE ROAD BUILDING ONE AUSTIN TX 78746 US (東京都新宿区新宿6 - 27 - 30)	220	1.5
計		6,667	48.0

(注) 1 上記所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は次のとおりであります。

みずほ信託銀行(株)退職給付信託日本製紙口再信託受託者(株)日本カストディ銀行	1,402千株
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	1,258千株
(株)日本カストディ銀行(信託口)	512千株

- 日本製紙(株)は当社普通株式1,402千株を信託財産としてみずほ信託銀行(株)退職給付信託日本製紙口再信託受託者(株)日本カストディ銀行へ拠出しておりますが、信託契約に基づき、議決権行使の指図権については委託者である日本製紙(株)が留保しております。
- 当社は、自己株式1,132千株を保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
- (株)日本カストディ銀行(信託口)が保有している株式のうち、148千株は当社役員向け株式交付信託に係る信託財産であります。なお、当該株式は、連結財務諸表及び財務諸表において自己株式として表示しております。

## (6) 【議決権の状況】

## 【発行済株式】

2022年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,132,100		
	(相互保有株式) 普通株式 77,900		
完全議決権株式(その他)	普通株式 13,735,500	137,355	
単元未満株式	普通株式 76,051		1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	15,021,551		
総株主の議決権		137,355	

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、(株)証券保管振替機構名義の株式200株(議決権の数2個)が含まれております。

2 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、役員向け株式交付信託の信託財産として保有する当社株式148,100株(議決権の数1,481個)が含まれております。

## 【自己株式等】

2022年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 日本紙パルプ商事(株)	東京都中央区勝どき 3-12-1 フォアフロントタワー	1,132,100		1,132,100	7.5
(相互保有株式) ナビエース(株)	愛知県春日井市長塚町 2-12	1,300		1,300	0.0
大阪紙器工業(株)	大阪府高槻市宮田町 1-3-2	10,000		10,000	0.0
東京産業洋紙(株)	東京都中央区日本橋本石町 4-6-7	66,600		66,600	0.4
計		1,210,000		1,210,000	8.0

(注) 1 このほか、株主名簿上は当社名義となっておりますが、実質的に所有していない株式が200株(議決権の数2個)あります。なお、当該株式数は「発行済株式」の「完全議決権株式(その他)」欄に含まれております。

2 役員向け株式交付信託の信託財産として保有する当社株式148,100株は、上記の自己保有株式には含めておりません。

## 2 【役員の状況】

該当事項はありません。



## 第4 【経理の状況】

### 1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2022年7月1日から2022年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2022年4月1日から2022年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、八重洲監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	13,009	32,500
受取手形及び売掛金	122,330	135,164
棚卸資産	1 45,360	1 54,354
その他	3,930	5,163
貸倒引当金	1,554	1,880
流動資産合計	183,075	225,300
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2 45,594	2 33,512
土地	32,494	26,570
その他(純額)	2 31,286	2 31,804
有形固定資産合計	109,374	91,886
無形固定資産		
のれん	1,586	979
その他	2,043	2,051
無形固定資産合計	3,629	3,029
投資その他の資産		
投資有価証券	35,899	33,198
退職給付に係る資産	163	168
その他	8,990	9,864
貸倒引当金	2,272	2,506
投資その他の資産合計	42,781	40,724
固定資産合計	155,784	135,640
繰延資産	80	71
資産合計	338,939	361,010

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	96,010	101,039
短期借入金	39,024	38,824
1年内返済予定の長期借入金	5,076	5,236
コマーシャル・ペーパー	8,000	1,000
1年内償還予定の社債	11	-
未払法人税等	2,032	11,500
引当金	2,409	2,471
その他	11,973	12,504
流動負債合計	164,535	172,574
固定負債		
社債	30,000	30,000
長期借入金	28,559	27,060
引当金	1,272	621
退職給付に係る負債	1,237	1,477
その他	13,020	9,872
固定負債合計	74,088	69,030
負債合計	238,623	241,604
純資産の部		
株主資本		
資本金	16,649	16,649
資本剰余金	6,999	6,998
利益剰余金	65,484	82,481
自己株式	5,003	4,941
株主資本合計	84,129	101,188
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	7,438	6,280
繰延ヘッジ損益	39	27
為替換算調整勘定	1,279	3,783
退職給付に係る調整累計額	15	17
その他の包括利益累計額合計	8,692	10,053
新株予約権	83	76
非支配株主持分	7,412	8,090
純資産合計	100,317	119,407
負債純資産合計	338,939	361,010

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)
売上収益	208,029	266,324
売上原価	173,562	224,205
売上総利益	34,467	42,119
販売費及び一般管理費	1 28,151	1 32,582
営業利益	6,316	9,537
営業外収益		
受取利息	162	280
受取配当金	387	487
持分法による投資利益	271	300
その他	453	529
営業外収益合計	1,273	1,597
営業外費用		
支払利息	824	795
その他	103	66
営業外費用合計	928	861
経常利益	6,661	10,273
特別利益		
固定資産売却益	421	16,855
投資有価証券売却益	338	278
退職給付制度改定益	5,969	-
その他	4	-
特別利益合計	6,732	17,133
特別損失		
関係会社株式売却損	-	245
固定資産処分損	67	64
投資有価証券評価損	-	10
転貸損失	64	-
その他	23	0
特別損失合計	154	318
税金等調整前四半期純利益	13,240	27,087
法人税、住民税及び事業税	2,168	11,431
法人税等調整額	2,231	2,577
法人税等合計	4,399	8,854
四半期純利益	8,840	18,233
非支配株主に帰属する四半期純利益	386	403
親会社株主に帰属する四半期純利益	8,454	17,830

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
四半期純利益	8,840	18,233
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	965	1,024
繰延ヘッジ損益	1	12
為替換算調整勘定	1,480	2,756
退職給付に係る調整額	409	3
持分法適用会社に対する持分相当額	5	132
その他の包括利益合計	110	1,616
四半期包括利益	8,950	19,849
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	8,468	19,191
非支配株主に係る四半期包括利益	482	658

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	13,240	27,087
減価償却費	3,967	4,017
のれん償却額	1,024	789
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	307	189
廃棄物処理費用引当金の増減額(は減少)	-	0
貸倒引当金の増減額(は減少)	58	121
その他の引当金の増減額(は減少)	155	590
受取利息及び受取配当金	549	767
支払利息	824	795
持分法による投資損益(は益)	271	300
有形固定資産売却損益(は益)	421	16,855
投資有価証券評価損益(は益)	-	10
投資有価証券売却損益(は益)	338	33
退職給付制度改定益	5,969	-
転貸損失	64	-
売上債権の増減額(は増加)	91	8,144
棚卸資産の増減額(は増加)	2,753	5,413
仕入債務の増減額(は減少)	1,060	2,255
その他	84	1,554
小計	9,183	1,607
利息及び配当金の受取額	583	940
利息の支払額	817	768
法人税等の支払額又は還付額(は支払)	1,348	2,480
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,601	701
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	2,153	2,039
有形固定資産の売却による収入	751	34,690
無形固定資産の取得による支出	130	101
投資有価証券の取得による支出	196	31
投資有価証券の売却による収入	1,032	1,438
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	179	-
その他	157	262
投資活動によるキャッシュ・フロー	719	34,219

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額（は減少）	1,172	4,521
コマーシャル・ペーパーの増減額（は減少）	2,500	7,000
長期借入れによる収入	-	500
長期借入金の返済による支出	2,944	2,651
社債の償還による支出	11	11
自己株式の取得による支出	1	3
自己株式の売却による収入	14	10
配当金の支払額	763	833
非支配株主への配当金の支払額	8	9
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	-	2
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の売却による収入	39	-
その他	606	661
財務活動によるキャッシュ・フロー	7,952	15,181
現金及び現金同等物に係る換算差額	440	1,329
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	630	19,665
現金及び現金同等物の期首残高	11,587	12,731
非連結子会社との合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	6	-
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 10,963	1 32,397

【注記事項】

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の影響に関する会計上の見積り)

前連結会計年度の有価証券報告書の(追加情報)に記載した新型コロナウイルス感染症の影響に関する仮定について重要な変更はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

保証債務等

(1) 保証債務

連結会社以外の会社等の銀行借入等に対して、債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
富士製紙協同組合	320百万円	286百万円
松江バイオマス発電㈱	279 "	258 "
アライズイノベーション㈱	34 "	27 "
Japan Pulp & Paper(Korea)Co., Ltd.	20 "	16 "
Fine Paper Takeo(M)Sdn. Bhd.	11 "	15 "
計	664 "	601 "

(2) スポンサー・サポート契約

当社は、連結会社以外の関係会社等の投資先太陽光発電会社のプロジェクト・ファイナンスにあたり、スポンサー・サポート契約を締結しております。

手形遡求債務

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
輸出信用状付荷為替手形 銀行間未決済残高	885百万円	1,596百万円

1 棚卸資産の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
商品及び製品	40,372百万円	48,625百万円
仕掛品	657 "	850 "
原材料及び貯蔵品	4,332 "	4,878 "

2 圧縮記帳額

国庫補助金等により有形固定資産の取得価額から控除している圧縮記帳額及びその内訳は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
建物及び構築物	574百万円	574百万円
その他	3,514 "	3,514 "
計	4,088 "	4,088 "

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費の主なものは次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
従業員給料手当	8,378百万円	9,293百万円
賞与引当金繰入額	1,759 "	1,837 "



(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

- 1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
現金及び預金勘定	11,011百万円	32,500百万円
預入期間が3ヵ月を超える 定期預金・定期積金	48 "	103 "
現金及び現金同等物	10,963 "	32,397 "

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年5月17日 取締役会	普通株式	763	55	2021年3月31日	2021年6月29日	利益剰余金

(注) 配当金の総額には、役員向け株式交付信託が保有する当社株式に対する配当金10百万円が含まれておりません。

- 2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年11月10日 取締役会	普通株式	764	55	2021年9月30日	2021年12月1日	利益剰余金

(注) 配当金の総額には、役員向け株式交付信託が保有する当社株式に対する配当金9百万円が含まれておりません。

当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年5月13日 取締役会	普通株式	833	60	2022年3月31日	2022年6月28日	利益剰余金

(注) 配当金の総額には、役員向け株式交付信託が保有する当社株式に対する配当金10百万円が含まれておりません。

- 2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年11月8日 取締役会	普通株式	833	60	2022年9月30日	2022年12月1日	利益剰余金

(注) 配当金の総額には、役員向け株式交付信託が保有する当社株式に対する配当金9百万円が含まれておりません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

報告セグメントごとの売上収益及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

	報告セグメント					合計 (百万円)	調整額 (百万円)	四半期連結 損益計算書 計上額 (百万円)
	国内卸売 (百万円)	海外卸売 (百万円)	製紙加工 (百万円)	環境原材料 (百万円)	不動産賃貸 (百万円)			
売上収益								
顧客との契約から 生じる収益	85,042	89,777	20,599	9,978	-	205,396	-	205,396
その他の収益	-	-	-	-	2,632	2,632	-	2,632
外部顧客への 売上収益	85,042	89,777	20,599	9,978	2,632	208,029	-	208,029
セグメント間の内部 売上収益又は振替高	3,562	585	2,515	3,068	55	9,786	9,786	-
計	88,603	90,363	23,114	13,046	2,687	217,814	9,786	208,029
セグメント利益 又は損失( )	2,061	1,537	2,368	754	832	7,552	891	6,661

(注) 1 セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2 セグメント利益又は損失( )の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社部門の損益 108百万円が含まれております。全社部門の損益は、主に各報告セグメントに帰属しない一般管理費、営業外収益、営業外費用の純額であります。

当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

報告セグメントごとの売上収益及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

	報告セグメント					合計 (百万円)	調整額 (百万円)	四半期連結 損益計算書 計上額 (百万円)
	国内卸売 (百万円)	海外卸売 (百万円)	製紙加工 (百万円)	環境原材料 (百万円)	不動産賃貸 (百万円)			
売上収益								
顧客との契約から 生じる収益	88,415	139,514	22,621	13,548	-	264,098	-	264,098
その他の収益	-	-	-	-	2,226	2,226	-	2,226
外部顧客への 売上収益	88,415	139,514	22,621	13,548	2,226	266,324	-	266,324
セグメント間の内部 売上収益又は振替高	3,484	244	2,014	2,850	48	8,639	8,639	-
計	91,898	139,757	24,635	16,398	2,274	274,963	8,639	266,324
セグメント利益 又は損失( )	2,424	6,116	1,917	1,070	606	12,133	1,861	10,273

(注) 1 セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2 セグメント利益又は損失( )の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社部門の損益 481百万円が含まれております。全社部門の損益は、主に各報告セグメントに帰属しない一般管理費、営業外収益、営業外費用の純額であります。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載の通りであります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益	617円36銭	1,299円88銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益	8,454百万円	17,830百万円
普通株主に帰属しない金額	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益	8,454百万円	17,830百万円
普通株式の期中平均株式数	13,693千株	13,716千株
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	615円88銭	1,297円24銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額	-	-
普通株式増加数	32千株	27千株
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前 連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

(注) 株主資本において自己株式として計上されている役員向け株式交付信託が保有する当社株式を、「1株当たり四半期純利益」及び「潜在株式調整後1株当たり四半期純利益」の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。(前第2四半期連結累計期間168千株、当第2四半期連結累計期間149千株)

2 【その他】

2022年11月8日開催の取締役会において当期の中間配当金について次のとおり決議いたしました。

- 1 1株当たり中間配当金 60円00銭
- 2 中間配当金総額 833百万円
- 3 支払請求の効力発生日及び支払開始日 2022年12月1日

(注) 2022年9月30日現在の株主名簿に記録された株主に対し、支払いを行います。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2022年11月10日

日本紙パルプ商事株式会社  
取締役会 御中

八重洲監査法人

東京都千代田区

代表社員  
業務執行社員 公認会計士 三 井 智 宇

代表社員  
業務執行社員 公認会計士 辻 田 武 司

業務執行社員 公認会計士 山 田 英 二

### 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている日本紙パルプ商事株式会社の2022年4月1日から2023年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(2022年7月1日から2022年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2022年4月1日から2022年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、日本紙パルプ商事株式会社及び連結子会社の2022年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

### 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。